

消化のしくみ

Alimentary system

ユニット責任者：解剖学 教授 平田和明

ブロック名		期間	ブロック責任者
第1ブロック	消化①	10月16日～10月19日	星野 敬吾（解剖学）
第2ブロック	消化②	10月23日～10月26日	長谷 都（生理学）

1. ユニット概要・学習内容

身体を維持するために必要な栄養は、通常の場合消化器系を通じて摂取される。その栄養を体内で利用するために、様々な過程を経て消化吸収が行われることを理解することが本ユニットの目標となる。

まず消化器系器官の構造を学ぶ。その後に消化吸収の過程を学び、その調節機構についても理解する。最後に消化器系の発生を学ぶ。

2. 到達目標

- 1) 消化器系および腹膜の構造を説明できる。
- 2) 消化吸収の過程を説明できる。
- 3) 消化吸収の調節機構を説明できる。
- 4) 消化器系の発生を説明できる。

3. 学習上の注意点

高校生物で消化器系および調節系（自律神経系および内分泌系）の一部の学習が行われる。高校生物履修者はその範囲を十分に復習してから本ユニットに臨むことを期待する。

高校で生物を履修していない者は、事前学習で指定されている内容をもとに指定参考書の該当項に目を通してきてもらいたい。

4. 教科書・参考書

教科書

(1) 『岡嶋解剖学』（杏林書院）

（書評）伝統的な詳しく記述された系統解剖学書であり、人体解剖学を学ぼううえで必須の書籍である。索引が充実しており調べものにも向く。

(2) 『標準生理学』 (医学書院)

(書評) 以前はマニアックな記述が多く、学生には不評であったが8版以降大変読みやすく、イラストも一般受けする様になった。

参考書

(1) 『グレイ解剖学』 (エルゼビア・ジャパン)

(書評) 詳しく優れた局所解剖学書(胸部、腹部などの部位ごとの記述)である。第2学年の解剖学実習、高学年の臨床解剖学等の学習にも適している。図が美しく、長く使える良書である。

(2) 『オックスフォード生理学』 (丸善)

(書評) 各単元がコンパクトにまとまっている。単元ごとに、最後に理解して欲しい内容の要約および設問があり、自主学修に向いている。

(3) 『解剖学講義』 (南山堂)

(書評) バランスの良い良書である。図が適度にあり、説明文の量も適当である。

(4) 『カラー図解 人体の正常構造と機能』 (日本医事新報社)

(書評) 解剖学と生理学の両者の範囲が記述される。テーマごとに見開きの構成をとっており、見やすい。生物を履修していない学生でも、生体の機能をイメージしやすいイラストが揃っている。

生理機能の記述は、そこまで詳しくない。

(5) 『ネッター解剖学図譜』 (丸善)

(書評) 図譜集としては定番である。解説はないので、これだけでは勉強できない。

(6) 『イラスト解剖学』 (中外医学社)

(書評) 読みやすい。テーマごとに1項にまとめているため、見やすい構成となっている。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	90 (%)	後期中間試験期間中に実施する
授業態度		10 (%)	

※当ユニットでは学年末再試験を実施する。

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
解剖学	教授	平田 和明	12:30~13:30	医学部5階・解剖学教室	3517(内)
解剖学	講師	星野 敬吾	12:30~13:30	医学部5階・解剖学教室	hoshino
生理学	准教授	長谷 都	12:30~13:30	医学部4階・生理学教室	mfuruta
解剖学	講師	水嶋 崇一郎	12:30~13:30	医学部5階・解剖学教室	s_mizu

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略